科目名称	美術実習 A			授業コード	20070112
担当教員	谷口　文保	中山　玲佳、三島　一能			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	選択必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	美術の基礎的技法を習得するために、実技課題に取り組み、色彩構成や絵画表現の基礎的技法を身につけ、色彩を活かした絵画や造形作品を制作できるようになる。 色彩構成の用語や基礎的理論について説明できる。 色彩構成の基礎的技法を応用して、絵画や造形作品を制作できる。
授業計画の概要	前半は、水彩絵具やアクリル絵具、ケント紙や画用紙を用いて色彩構成の作品制作に取り組む。後半は、平面的な色彩表現から立体的な絵画表現へと展開していく。課題ごとに講評会を行う。15 回目の授業では、制作した全ての作品を並べて、学習成果や今後の課題を確認する講評会を行う。
授業計画	1：色彩基礎（下描き）（谷口） 2：色彩基礎（明度差構成）（谷口） 3：色彩基礎（色彩構成）（谷口） 4：色彩基礎（仕上げ、講評）（谷口） 5：色彩構成（下描き）（谷口） 6：色彩構成（色彩構成）（谷口） 7：色彩構成（仕上げ、講評）（谷口） 8：補色混色カラーチャートの制作(明度と彩度)（中山） ９：補色を用いた立方体の色彩表現（下描き、彩色）（中山） 10：補色を用いた立方体の色彩表現（彩色、仕上げ）（中山） 11：補色を用いた色鉛筆による写実描写（中山） 12：立体に彩色する（アイデアスケッチ、下塗り）（中山） 13：立体に彩色する（彩色とイメージの定着）（中山） 14：立体に彩色する（仕上げ、講評）（中山） 15：本授業でのすべての課題についての講評を全教員で行う（谷口・中山・三島）
実務経験のある教員	担当する教員全員が、美術作家として作品の制作や展覧会での発表、また各種ワークショップ開催などの経験がある。
授業時間外学習	授業前に色彩理論や色彩構成に関する本を読んでおくと授業の説明が良く理解できる。授業後に、上手くできなかった課題をもう一度制作してみたり、彩色の練習をすると実技力が向上する。
評価方法	提出作品 80%、授業態度や課題への取り組み状況などを 20%の割合で評価する。 提出作品を全て提出しなかった場合、または出席が 10 回に満たない場合はＥ評価となる。
指導方法	課題ごとに講評会を行う。最終回に授業全体の振り返りと総評を行う。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	デザインの色彩（中田満雄他／著、日本色研、2003） わかりやすいカラーの基礎知識（山中麗子／著、ファッション教育社、1998） 色彩論（ヨハネス・イッテン／著、大智浩／翻訳、美術出版社、1971）
各自準備物	汚れてもよい服装、鉛筆デッサン用具（または筆記具）、直定規、カッターナイフ、水入れ、雑巾、コンパス、不透明水彩絵具（アクリルガッシュもしくはポスターカラー）、パレット、筆など
実習費	画材、絵具等は各自が負担する。
その他	

科目名称	クラフト実習Ａ			授業コード	20070312
担当教員	友定　聖雄	田口　史樹、森岡　希世子			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	選択必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	クラフト基礎実習からレベルアップした技法と知識を習得し、素材的特徴の理解を深め、さらに、技術的な知識から表現の可能性を研究する事が可能となる。
授業計画の概要	ガラス・陶磁器コースとジュエリー・メタルワークコースで扱う素材や材料に関しての科学的な知識と基礎的な技法をひと通り身につけ、与えられた課題の実習を積み重ね、クラフト作品として完成させる。
授業計画	● この授業は、全受講生を３つのグループに分け、３コース同時開講とします。 １：クラフト領域３コースによる実習課題Ⅰ（ガラス、陶芸、メタルそれぞれの課題説明） ２：実習（イメージスケッチ基礎成形） ３：実習（技術の応用） ４：実習（装飾） ５：実習（仕上げ研磨） ６：クラフト領域３コースによる実習課題Ⅱ（ガラス、陶芸、メタルそれぞれの課題説明） ７：実習（イメージスケッチ基礎成形） ８：実習（技術の応用） ９：実習（装飾） 10：実習（仕上げ研磨） 11：クラフト領域３コースによる実習課題Ⅲ（ガラス、陶芸、メタルそれぞれの課題説明） 12：実習（イメージスケッチ基礎成形） 13：実習（技術の応用） 14：実習（装飾） 15：実習（仕上げ研磨）
実務経験のある教員	作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な制作活動を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題の作品制作に取りくみ、より完成度の高い作品に仕上げる。
評価方法	３つの課題作品の合計点で評価する。課題は全て提出しなければＥ評価となる。
指導方法	１年生学年末展示において全員の課題作品を講評する。
使用テキスト	各コース、授業内容についてのプリントを配布する。
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、筆記用具、スケッチブック
実習費	各コースごとに必要な材料を購入する。
その他	● この授業は、全受講生を３つのグループに分け、３コース同時開講とします。学生は全てのコースを受講する事。

科目名称	美術実習 B			授業コード	10070581
担当教員	戸矢崎　満雄	さくまはな、中山　玲佳			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	作品のリサーチとユニークな発想や個性的なイメージにふさわしい画材を選択して、形や色を与えて的確に表現する力をつけることができる。
授業計画の概要	画材として水彩絵の具とアクリル系絵の具を使用する。画材を生かして、対象を鋭く観察してユニークな発想を導き出す力、想像を膨らませて個性的なイメージを展開する方法を学ぶ。
授業計画	１：イントロダクションとして、水彩画の描き方とパレットの準備（戸矢崎） ２：水彩画制作で、紙・絵の具・筆についてと「色見本」の制作（戸矢崎） ３：水彩画制作の水彩表現として、４つの手法でサンプル試作（戸矢崎） ４：水彩画制作として、与えられたモチーフの「静物画」を描く（戸矢崎） ５：水張りと課題「音からのイメージ」をアイデアスケッチする（戸矢崎） ６：水彩の効果を生かす抽象表現として課題「ドローイング」((戸矢崎） ７：各自が音楽（音）を流して作品発表し、講評会を行う（戸矢崎） ８：アクリル画の描き方　紙・絵の具・パレット・筆について（さくま・中山） ９：アクリル画制作　三原色＋白をつかった色サンプル試作（さくま・中山） 10：アクリル画制作　三原色＋白を使って「自分の好きな風景」を描く（さくま・中山） 11：アクリル画制作「自分の好きな風景」（観察力を鍛える）（さくま・中山） 12：アクリル画制作「自分の好きな風景」（混色を生かした表現）（さくま・中山） 13：アクリル画制作　三原色＋白を使って「風景画を抽象化し画面構成する」（さくま・中山） 14：アクリル画制作「風景画を抽象化し画面構成する」（完成に向けて）（さくま・中山） 15：まとめ（作品展示・講評）（さくま・中山）
実務経験のある教員	担当する全教員が、美術作家として作品の制作や各種の展覧会などで発表の経験がある。
授業時間外学習	授業の中で、次回授業の準備学習についての資料・参考文献・準備物等の内容を指示するので、予備知識を得ておくこと。
評価方法	課題作品 80%、課題への取り組みを 20%で評価する。
指導方法	サンプル制作では簡単な解説を行い、課題作品では発表・講評会を行う。
使用テキスト	必要なものはプリントで配布、または適時に紹介する。
参考テキスト・URL	課題説明や講評会において適時紹介する。
各自準備物	初回に指示する透明水彩用具一式、アクリル系絵の具、それ以外の指示された教材を購入する。
実習費	
その他	定員制限があり、調整するので、必ず第１回目の授業には出席すること。 Ａ学科生優先。

科目名称	クラフト実習 B			授業コード	10070322
担当教員	友定　聖雄	田口　史樹、森岡　希世子			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	クラフトの基礎的技法を繰り返し行うことで技術の習得と技法の応用を学び、新たな表現を作品に試行できる能力を身につける。得意とする技法、素材を見極め、今後の研究課題を自ら発見する能力を身につける。
授業計画の概要	１年で習ったクラフトの基礎を繰り返し行うことで技術の習得と技法の応用を試行し、新たな表現を模索することを目標とする。複合素材を併用した作品を制作する事も可。各コースの実践的な応用の中で自分に合った技法を見出し、専門コースの選定をする。
授業計画	● この授業は、全受講生を３つのグループに分け、３コース同時開講とします。学生はその内２コースを選択します。 １：３コースによる１回目の実習課題ガラス（友定）、陶芸（森岡）、メタル（田口、三島） ２：実習イメージスケッチ ３：実習基礎成形 ４：実習技術の応用 ５：実習装飾 ６：実習研磨 ７：実習素材の作品提出 ８：３コースによる２回目の実習課題ガラス（友定）、陶芸（森岡）、メタル（田口、三島） ９：実習イメージスケッチ 10：実習基礎成形 11：実習技術の応用 12：実習装飾 13：実習研磨 14：実習素材の作品提出採点 15：全体講評
実務経験のある教員	友定、森岡、田口、三島 作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な制作活動を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題の作品制作に取りくみ、より完成度の高い作品に仕上げるよう努力する事。
評価方法	２課題の作品の合計点で評価する。課題は全て提出しなければＥ評価となる。
指導方法	全体講評の授業において全員の課題作品を講評する。
使用テキスト	便宜、各コースの専門的なテキストを配布する。
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、筆記用具、スケッチブック
実習費	各実費あり。１コース 1,000 円～3,000 円程度
その他	全 15 回を前半と後半に分け、全コース並行して同じ課題を２回行う。履修生は前半と後半にそれぞれ異なる１課題を選択すること。

科目名称	絵画演習 A			授業コード	20070153
担当教員	中山　玲佳				
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（美術領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	対象を観察し描写することを中心に油絵具という画材が持つ特性やそれを扱う技術の基礎的な知識を習得する。さらに各々の独自性に着眼しながら作品を次段階に発展させる表現能力を身につける。
授業計画の概要	絵画を専門とするための基礎となる授業である。3 課題を通して油彩画の基礎的な技法を習得し、その表現方法の多様性に気づくとともに理解を深め、独自の表現を目指し作品制作を行う。
授業計画	1：イントロダクション－有名作品における油彩表現の考察、油彩画の道具・材料等説明 2：課題１ー油絵具による描写表現（パネル制作 WS、キャンバス張り） 3：制作（モチーフスケッチ、下描き、アクリル絵具による彩色描写） 4：制作（油絵具を使用しての実践研究、彩色描写） 5：制作（彩色描写の発展と応用及び各自の表現の展開を試みる） 6：作品を完成させ、各自作品についての発表と講評およびディスカッション 7：課題 2ー人物をテーマにした油彩表現（モチーフ選択、油絵具でモノタイプ WS） 8：制作（キャンバス張り、アイデアスケッチ、下描き） 9：制作（下描き完成後、油絵具による描画制作の開始） 10：制作（油絵具による描画制作の発展と応用） 11：作品を完成させ、各自作品についての発表と講評およびディスカッション 12：課題３ー各自のテーマで油彩表現の可能性を探る（支持体準備、構成） 13：制作（アイデアスケッチ、下描き、油絵具による描画制作） 14：制作（描画制作における独自表現の追及と発展） 15：作品を完成させ、各自作品についての発表と講評および総まとめ
実務経験のある教員	中山玲佳は、平面を中心とする美術作家として作品の制作や各種の展覧会などで発表の経験がある。
授業時間外学習	国内外の様々な油彩画表現に関心を持ち、画集や印刷物はもちろん、機会があれば多くの実物に触れることも大切である。
評価方法	提出作品 80%、授業態度や課題への取り組み状況などを 20%の割合で評価する。
指導方法	課題の講評
使用テキスト	適宜資料など配布
参考テキスト・URL	油絵用具と基礎知識(レイ・スミス著;佐伯雄一訳.--美術出版社,1994) 「油絵」描き方の基本(山内亮／著.--美術出版社,1995)
各自準備物	油彩用具一式（油絵の具、パレット、筆、描画油、筆洗油、古紙類、古布類など） 油彩用具がある者は初回に持参すること。ない場合は購入が必要だが、初回の授業で説明するので、その後に購入してもよい。
実習費	
その他	絵具や用具など各自で消耗する材料については各々での用意が必要である。

科目名称	フィギュア・彫刻演習 A			授業コード	20070183
担当教員	三島　一能				
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（美術領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	モチーフに植物や動物を取り上げ、それらの持つ魅力的な形態や量感の表現を過去の優れた作品で知り、実際の制作をとおして理解する。 植物や動物をモチーフにして独自の作品イメージを構想し、これまでの材料体験と習得した技法を活かした造形表現が期待できる。
授業計画の概要	この授業では動物や植物をテーマとして取り上げて作品制作を行う。私たちの生活に動物や植物は欠かすことのできない存在である。それらが持つ不思議で多様な姿や形、また魅力的な量感はこれまで多くの造形作品として表現されてきた。先人の優れた作品を参考にしてさらに専門的な知識を増やし、独自の作品イメージを構想してこれまでの材料体験と習得した技法を基に作品を制作しながら、技術の習熟度も高める事を目的としている。
授業計画	１：課題説明／「テーマ１：植物」資料の収集とアイデアスケッチ ２：アイデアスケッチをもとにしてマケットを制作する ３：マケットから作品の大きさを決定し、芯となる部分をつくる ４：乾燥、硬化させた芯に粘土を盛り付けて各部分を造形する ５：全体のバランスを見ながら各部分を細部まで造形する ６：テクスチャーの表現や研磨などの工程で造形を仕上げる ７：基本的には水性絵具を用いて着彩を施し、作品を完成させる ８：「テーマ 2：動物」関連資料を収集してアイデアをスケッチする ９：アイデアスケッチをもとにしてマケットを制作する 10：マケットから作品の大きさを決定し、芯となる部分をつくる 11：乾燥、硬化させた芯に粘土を盛り付けて各部分を造形する 12：全体のバランスを見ながら各部分を細部まで造形する 13：テクスチャーの表現や研磨などの工程で造形を仕上げる 14：基本的には水性絵具を用いて着彩を施し、作品を完成させる 15：作品を展示鑑賞し、個々の作品について教員から講評を受ける
実務経験のある教員	担当教員は独自の構想で造形物を制作し、数多くの公募展、個展、グループ展等で作品を発表している。その豊富な経験を生かして、作品の構想、材料の知識と扱い方、造形表現についての具体的な教育を行っている。
授業時間外学習	各種の粘土、モデリング技法について調べる。
評価方法	提出作品を 80%、授業態度や課題に取り組む姿勢を 20%の割合で評価する。 3 分の 2 以上の出席を評価対象とする。
指導方法	作品の講評
使用テキスト	
参考テキスト・URL	アニマル・モデリング動物造形解剖学／片桐裕司著／玄光社、石膏技法／柳原明彦／美術出版社
各自準備物	モデリング用具一式、着彩用具一式。
実習費	
その他	

科目名称	美術教育演習 A			授業コード	20070234
担当教員	谷口　文保	さくまはな			
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	A 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	共同制作を含む多様な素材、テーマの課題を体験し、それぞれの特徴や教育効果について理解し、多様な素材やテーマの作品制作に取り組むことができるようになる。 多様な素材やテーマの作品制作に取り組むことができる。 他者と協力して共同制作に取り組むことができる。 多様な素材やテーマの課題について、その特徴や教育効果について説明することができる。
授業計画の概要	前半は、共同制作を含む多様な素材、テーマの課題に取り組む。課題ごとに講評会を行い、作品内容の講評とともに美術教育の観点から、その課題の特徴や教育効果、評価の観点などをディスカッションする。後半は、共同制作やワークショップの企画や実践を行う。共同制作やワークショップの課題はグループワークで行う。
授業計画	１：イントロダクション（谷口、さくま） ２：課題 1「手から描く」（谷口） ３：課題 2「構想描写」（谷口） ４：課題 3「仮面」（アイディアスケッチ、構造制作）（谷口） ５：課題 3「仮面」（構造、貼りこみ）（谷口） ６：課題 3「仮面」（彩色、仕上げ）（谷口） ７：課題 4「布」（練習、共同制作）（さくま） ８：課題 4「布」（共同制作）（さくま） ９：課題 5「立体造形」（アイデアスケッチ）（さくま） 10：課題 5「立体造形」（造形のしくみ、構造体の試作）（さくま） 11：課題 5「立体造形」（展示の検討・実践）（さくま） 12：課題 6「共同制作」（現地調査、ディスカッション）（谷口、さくま） 13：課題 6「共同制作」（準備、制作）（谷口、さくま） 14：課題 6「共同制作」（制作）（谷口、さくま） 15：課題 6「共同制作」（仕上げ、講評会）（谷口、さくま）
実務経験のある教員	共同制作やアートワークショップを多数実践してきた経験を活かし、実践的演習を実施する。 谷口は、高等学校の美術講師やデザイン美術コースアドバイザーを務めた経験をもとに、美術教育の視点を重視した授業運営を行う。さくまは、イギリスでの作家活動および日本での作家活動・アートプロジェクトを含むアート活動の経験を有することから、本授業においても事例紹介やそうした経験で得た知見を活用する。
授業時間外学習	授業の前後に、小学校、中学校、高等学校での図工や美術の授業を思い出し、どんな授業課題をやったか書きだしてみると、この授業と美術教育を接続して考えるきっかけになる。授業後に、図工や美術の教材集を読むと、さらに深く理解できる。本や web サイトで、共同制作の作品や表現に関連する資料を調べることも有効である。
評価方法	提出物 80%、授業態度 20%の割合で評価する。 提出作品を全て提出しなかった場合、または出席が 10 回に満たない場合はＥ評価となる。
指導方法	課題ごとに講評会を行う。最終回に授業全体の振り返りと総評を行う。
使用テキスト	授業中にプリントや資料を配布する。
参考テキスト・URL	東山明、神吉脩、丹進編「中学校・高校美術科ニューヒット教材 1 絵画・平面造形編」（明治図書、2009）
各自準備物	スケッチブック、絵具道具、ハサミ、カッター、定規類。その他、必要な準備物は授業中に指示する。
実習費	原則として、材料費や交通費等は各自負担とする。
その他	

科目名称	ジュエリー・メタルワーク演習 A			授業コード	20070423
担当教員	田口　史樹				
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	日本の彫金技法の中でも難易度の高いものを課題作品制作を通して修得する。金属の特性を知り、自身の作品に展開する思考を身に付ける。
授業計画の概要	ジュエリーは金属を素材とする作品、製品が大半を占めている。この授業では一般的なジュエリー制作に必要とされる金属加工法を含む彫金技法及びロウ付け技法とその応用を課題作品の制作を通して修得する。また素材加工にとって大変重要な工具についてもその名称、使用方法及び加工法など専門的な知識を身に付ける。
授業計画	技法Ⅰ「寄せ物」 １．導入―デザイン：課題説明、エスキース ２．デザイン―制作：デザイン、型紙作成、地金取り、地金加工 ３．制作：地金加工、接合（鑞付け） ４．制作：地金加工、接合（鑞付け）、表面加工 ５．制作―仕上げ：接合（鑞付け）、表面加工 ６．制作―仕上げ：表面加工、仕上げ 技法Ⅱ　「切嵌め象嵌・接ぎ合せ象嵌（色金）」 ７．導入―デザイン：課題説明、エスキース、地金取り計画 ８．デザイン―制作：地金切り抜き（糸鋸）、接合（鑞付け） ９．　制作：地金切り抜き（糸鋸）、接合（鑞付け） 10. 制作：地金切り抜き（糸鋸）、接合（鑞付け） 11. 制作：地金切り抜き（糸鋸）、接合（鑞付け） 12. 制作―金具／仕上げ：地金切り抜き（糸鋸）、接合（鑞付け） 13. 制作―金具／煮色仕上げ 14. 制作―仕上げ 15. 講評
実務経験のある教員	田口 作家として制作活動の経験を活かし、より実践的な技法・技術を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題制作に積極的に取り組み、より完成度の高い作品にすること。
評価方法	作品評価 80%、授業態度 20%の割合で評価。 課題未提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
指導方法	田口 作家としての制作活動の経験を活かし、より実用的な技法・手法の指導を実践的に行う。
使用テキスト	適宜指示
参考テキスト・URL	
各自準備物	作業着、筆記用具、エスキース帳
実習費	課題制作に必要な金属材料等は各自負担
その他	ジュエリー・メタル分野を選択する学生は必ず履修すること。

科目名称	ガラス・陶磁器演習 A			授業コード	20070362
担当教員	友定　聖雄	森岡　希世子			
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	泥漿鋳込み成形や、キルンキャストといった、ガラス、陶磁器に共通する石膏型成形を習得し、高度な技術を身につける。後半課題ではそれぞれの分野において、さらに技術面の習熟を高め、技術的な幅を広げる事により、作品作りの自由度を高め、オリジナリティーある作品が制作出来る。
授業計画の概要	陶芸とガラス工芸の基本的な技法を、それぞれ実験的な課題で研究し、材料に対する知識と表現の可能性を探る。又ガラス、粘土、釉薬のテストピースを窯の温度、焼成時間などで工夫しながら実験、研究を行い、窯に対する工学的な知識も学習する。
授業計画	第１回から第７回まではガラスと陶磁器に共通の石膏型成形の授業を行う（友定、森岡） １：イントロダクション、石膏型の作り方、泥焼鋳込みの作り方 ２：ラフスケッチ、デザイン研究 ３：デザインの完成、デザイン考察 ４：原型作り１（マケット作り、油土による原型の作り方） ５：原型作り２（陶土による原型の作り方） ６：石膏型作り（合わせ型の技法、流し込み技法の説明） ７：仕上げ（焼成データの作り方、データの入力方法） 友定（ガラス）森岡（陶磁器） ８：プレス型の説明（作品例、技法）タタラ成形の説明（作品例、技法） ９：デザインの考察（デザインの特徴）タタラ制作（型打ち技法） 10：デザインの決定（デザイン研究）デザインの決定（デザインの研究） 11：原寸図制作型紙制作（タタラ制作） 12：ガラスカット（研磨機器の使用方法）タタラ成形（組み立て） 13：接着作業タタラ成形（接着） 14：研磨作業色絵付け・釉薬掛け作業 15：合同の作品講評
実務経験のある教員	作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な創作活動を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題の作品制作に取り組み、より完成度の高い作品に仕上げるよう努めること。
評価方法	前半、後半の課題の合計点で評価する。課題は全て提出しなければＥ評価となる。
指導方法	合同の全体講評の授業において全員の課題作品を教員が講評する。
使用テキスト	便宜、ガラス、陶芸に関する印刷物を配布する。
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、印刷物、スケッチブック
実習費	制作に必要な材料は各自購入する。
その他	ガラス・陶芸分野を選択する学生は必ず履修すること。

科目名称	絵画演習 B			授業コード	10070213
担当教員	戸矢崎　満雄				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	A 生（美術分野）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	「色彩」「フォルム」「収集・集合」をテーマにして、各自のテーマとモチーフに沿い、それぞれの画材の選択と表現技術を身につけることができる。
授業計画の概要	個々の表現の探求のために、いくつかのトレーニングを行い、各自が目指すべきテーマや技法を３つのテーマによる制作の中から試行する。仲間の作品と比較することで自身の特徴を発見し、独自の表現を目指す。
授業計画	１：イントロダクションとしてレクチャーと各自調査の発表。 ２：課題１：テーマ「色彩」テーマの計画を書き、キャンパス張りなど。 ３：課題１：プランニングを進め、アイデアスケッチを行う。 ４：課題１：支持体に下書きし、およびドローイング・彩色する。 ５：課題１：彩色を進め、仕上げをして、講評会を行う。 ６：課題２：テーマ「フォルム」テーマの検討、キャンパス張りなど。 ７：課題２：プランニングとアイデアスケッチ、および発表を行う。 ８：課題２：支持体に下書きし、およびドローイング・彩色する。 ９：課題２：彩色を進め、仕上げをして、講評会を行う。 10：課題３：テーマ「収集・集合」テーマの検討、支持体の準備など。 11：課題３：プランニングを進め、アイデアスケッチを行う。 12：課題３：支持体に下書きし、およびドローイング・彩色などする。 13：課題３：制作として彩色を進め、仕上げを行う。 14：課題３：まとめとして課題３点の発表と講評会を行う。 15：学外での作品展を計画し会場で作品展示を行う。
実務経験のある教員	平面を含む多様な作品の制作と展覧会などへの発表の経験が多数ある。
授業時間外学習	いろいろな画家の作品の変遷について調べることはテーマ探求の参考になるので、図書館などで画集や DVD を見ると良い。美術館などで、表現技法の観点から好きな作品を分析してみると発見があるため、表現技術を学ぶには実物を見ることが大切。
評価方法	課題作品 70%、展示を含む授業での取り組み 30%で評価する。
指導方法	課題それぞれで発表・講評会を行い、作品展も開催する。
使用テキスト	必要なものは適時に配布する。
参考テキスト・URL	課題を進めるためのリサーチでシートを作る際に、適時に参考になるものを紹介する。
各自準備物	
実習費	作品制作に関する費用は、各自の負担となります。
その他	３年生以上が対象。

科目名称	フィギュア・彫刻演習 B			授業コード	10070702
担当教員	三島　一能				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（美術領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	動物や人をモチーフに取り上げ、科学や文化の視点からその形態についての理解を深める。 動物や人をモチーフに各自の造形作品を構想して表現できる造形力を高めることが期待できる。
授業計画の概要	いつの時代においても私たちにとって人間や動物はとても興味深い対象であり、また芸術的にも科学的にも重要なテーマでありモチーフである。筋肉や骨格などの解剖学的な理解や、文化における様々な表現の理解を通して各自の考察を深め、それぞれの造形表現の切り口を見いだす。また完成後の展示までを考慮した、作品の構想から制作までの学習を行う。
授業計画	１：課題説明／フィギュア、人形、彫刻などの資料収集とレポートの作成 ２：レポートの発表。また各自の関心や着目点から作品概要を設定する ３：作品概要をもとに作品を考え、そのイメージをラフスケッチする ４：イメージを具体的なプランにしながら、展示方法も含めて検討する ５：油土を用いたマケット制作で全体的なイメージを把握する ６：油土を用いたマケット制作で細部のイメージも把握する ７：芯の大きさ、材質、形状を決定し、重心位置も確認して芯を制作する ８：台座の形状を考え、作品の固定方法も決めて必要な材料を手配する ９：粘土を水で調整しながら、芯材に粘土を盛りつけて粗造りをする 10：全体とのバランスに注意しながら各部分の造形を行う 11：必要に応じてスパチュラに加工を施すなどして細部の造形を進める 12：必要に応じてテクスチャーパッドを作り、テクスチャーを造形する 13：モデリングでできた凹凸や細かな傷などを修正し塗装の下地を作る 14：調色、光沢などに注意しながら着彩を施し作品を完成させる 15：作品を展示鑑賞し、個々の作品について教員から講評を受ける
実務経験のある教員	担当教員は独自の構想で造形物を制作し、数多くの公募展、個展、グループ展等で作品を発表している。その豊富な経験を生かして、作品の構想、材料の知識と扱い方、造形表現についての具体的な教育を行っている。
授業時間外学習	各自の作品プランに関係する資料を集めておく。
評価方法	提出作品を 80%、授業態度や課題に取り組む姿勢を 20%の割合で評価する。 3 分の 2 以上の出席を評価対象とする。
指導方法	作品の展示および講評
使用テキスト	
参考テキスト・URL	立体像で理解する美術解剖／阿久津裕彦著／技術評論社
各自準備物	フィギュア制作用具一式、着彩用具一式
実習費	
その他	

科目名称	美術教育演習 B			授業コード	10070253
担当教員	谷口　文保				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	アートワークショップの基本構造を理解し、共同制作を内包するアートワークショップを企画し、実践できるようになる。アートワークショップの基本構造や社会的可能性について説明できる。小規模なアートワークショップを企画し、実践できる。
授業計画の概要	ワークショップの概念と歴史を学び、その可能性や課題について考え、ディスカッションを行う。美術館や地域社会で展開されているアートワークショップの企画運営の方法や技術を学ぶ。さらに、学内外にフィールドを設定し、現地調査に基づいてアートワークショップを企画し、実践する。アートワークショップの企画運営は、原則としてグループワークで行う。長時間をかけた実践を通して専門的知識や創造的技術の獲得を目指す。
授業計画	１：イントロダクション ２：事例調査 ３：現地調査、ディスカッション ４：アートワークショップの企画、ディスカッション ５：企画プレゼンテーション準備 ６：企画プレゼンテーション、ディスカッション ７：タイムテーブルの作成、ディスカッション ８：タイムテーブル、広報物の作成 ９：現地調査、関係者との打ち合わせ 10：アートワークショップの実践（準備、制作） 11：アートワークショップの実践（制作、まとめ） 12：ディスカッション、報告書作成の方法 13：報告書の作成（データ整理、文章、図表の作成） 14：報告書の作成（編集） 15：報告書の提出、まとめ
実務経験のある教員	アートワークショップやアートプロジェクトを多数実践してきた経験を活かし、地域と連携した実践的演習を実施する。また、高等学校の美術科教員を務めた経験をもとに、美術教育の視点を重視した授業運営を行う。
授業時間外学習	事前にワークショップやアートプロジェクトに関連する書籍や web サイトを読んでおくと、授業内容の理解に役立つ。授業後、地域で実施されているアートプロジェクトやワークショップに参加すると、授業内容をさらに深く理解できる。
評価方法	実践活動の内容 70%、提出物 30%の割合で評価する。
指導方法	アートワークショップ実施後に振り返りと講評を行う。最終回の授業で、全体的な総評を行う。
使用テキスト	授業時にプリント等を配布する
参考テキスト・URL	谷口文保「アートプロジェクトの可能性　芸術創造と公共政策の共創」（九州大学出版会、2019） 中野民夫「ワークショップ新しい学びと創造の場」（岩波書店、2001）
各自準備物	筆記具、スケッチブック。その他、必要な道具類は授業中に連絡する。
実習費	材料費や交通費が必要となる場合がある。
その他	学外でアートワークショップを実施する予定。土曜日や日曜日に集中授業を実施する場合がある。

科目名称	ジュエリー・メタルワーク演習 B			授業コード	10070433
担当教員	田口　史樹				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	彫金の伝統技法を主軸とした金属の加工法を学び、ジュエリーを制作する為の基礎的な能力を身に付ける。
授業計画の概要	現代のジュエリーには幅広い表現方法があるが、金属加工の知識はジュエリー制作にとっての基礎であり、またあらゆる方向性に対して応用が可能である。この授業では日本の彫金技法を主軸とした金属加工の手段を学び、課題作品として制作することで自己の表現を探る。最終的に、修得した各種技法や表現に必要な素材を複合的に使用し、自由課題として展開する。
授業計画	研究Ⅰ「打ち出し技法」 １．イントロダクション：課題説明、エスキース・デザイン ２．工具説明：工具加工、エスキース・デザイン ３．工具加工 ４．工具加工 ５．制作：地金加工、打ち出し技法成形説明、打ち出し技法成形 ６．制作：打ち出し技法成形 ７．制作：打ち出し技法成形 ８．制作：打ち出し技法成形、裏板・金具制作 ９．制作：裏板・金具制作、研磨・着色 10. 制作：仕上げ 研究Ⅱ「彫り」 11. .導入―工具加工：課題説明 12. 制作：工具加工 13. 制作：地金加工 14.制作：地金加工、仕上げ 15. 講評
実務経験のある教員	田口 作家として制作活動の経験を活かし、より実践的な技法・技術を指導する。
授業時間外学習	授業時間外での課題制作に積極的に取り組み、より完成度の高い作品にすることが望ましい。
評価方法	作品評価 80%、授業態度 20%の割合で評価。 課題未提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
指導方法	講評でそれぞれの課題作品について教員が評価、アドバイスを行う。
使用テキスト	適宜指示
参考テキスト・URL	
各自準備物	作業着、筆記用具、エスキース帳
実習費	材料費は各学生の制作作品に応じて発生する。
その他	ジュエリー・メタルワーク分野を選択する学生は必ず履修すること。

科目名称	ガラス・陶磁器演習 B			授業コード	10070373
担当教員	友定　聖雄	森岡　希世子			
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	２年次までに習得したガラス、陶芸の基礎的な技術と知識を繰り返しの制作によって身につける。又、与えられたテーマに沿って複数の課題作品を制作するする事により、専門的な技法の応用と表現を作品に展開させる事ができる。
授業計画の概要	陶磁器の焼成やガラス加工の様々な技法の中から、自分自身に合った素材と技法を見つけ出す。また、テーマ設定を明確にし、表現と技術、両面より作品の完成度の向上を図る。ガラス、陶芸それぞれの窯に関する焼成知識をマスターし、自分で操作する事により、オリジナルの作品制作へとつなげていく。時間をかけて専門的な技法の習得と表現の幅を広める事を目的とする。
授業計画	１：イントロダクション、ガラス、陶磁器、それぞれの課題の説明（友定、森岡） ２：各自の技法の設定（友定）イメージスケッチ（森岡） ３：ラフデザイン（友定）陶土作り基礎（森岡） ４：デザインの完成（友定）磁器土作り基礎（森岡） ５：ガラス、陶磁器それぞれのテストピース制作（友定、森岡） ６：テストピースの検証、技法の考察（友定、森岡） ７：作品制作、応用（友定、森岡） ８：作品完成、作品講評（友定、森岡） ９：ラフデザイン（友定）イメージスケッチ（森岡） 10：デザインの完成（友定）素材作り応用（森岡） 11：ガラス、陶磁器それぞれのマケットの制作と考察（友定、森岡） 12：ガラス、陶磁器それぞれのデザイン研究、技法考察（友定、森岡） 13：作品制作、素材への一次加工（友定、森岡） 14：作品制作、素材への二次加工と応用（友定、森岡） 15：作品の全体講評（友定、森岡）
実務経験のある教員	作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な制作活動を指導する。
授業時間外学習	博物館、美術館でのガラス、陶芸に関する名品をできるだけ見に行くよう努めること。
評価方法	２点の作品の合計点で評価する。課題は全て提出しなければＥ評価となる
指導方法	全体講評の授業において全員の課題作品を教員が講評する。
使用テキスト	便宜、ガラス、陶芸に関する印刷物を配布
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、筆記用具、スケッチブック
実習費	制作に必要な材料は各自購入すること。
その他	

科目名称	絵画演習 C			授業コード	20070722
担当教員	戸矢崎　満雄	中山　玲佳			
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（美術分野）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	受講者各自の作品テーマを探求しながら、独自の絵画技法を試行することで表現の方向性を見いだし、自身の作品を言葉で説明し、発表・展示することができる。
授業計画の概要	各自の作品テーマを探求するなかで絵画技法を習得する。「絵画演習 B」で実践した制作を発展させて、さらに独自の絵画表現を目指し、それぞれが目指す絵画のテーマや技法を検討し、習作の制作を経て、本制作を行う。
授業計画	１：イントロダクションで課題の説明と、個々の制作方針を探る。 ２：課題 A:Experiment①として各種の画材を実験し考察する。 ３：課題 A:Experiment②として支持体について実験し考察する。 ４：課題 A:Experiment を通して得たアイデアをもとに作品を考える。 ５：課題 A:Experiment を通して得たアイデアをもとに作品を制作する。 ６：課題 A:Experiment を通して考えた作品を完成させ講評会を行う。 ７：学外での絵画作品展の見学とギャラリーの調査を行う。 ８：課題 B:キャンバス 80 号相当の絵画作品の制作準備を行う。 ９：課題 B:作品制作のためのアイデアスケッチと支持体を準備する。 10：課題 B:制作用の計画書を提出し、各自の支持体を完成させる。 11：課題 B:各自の画材を用意して絵画の制作を進める。 12：課題 B:制作を進め、経過を見るために中間発表を行う。 13：課題 B:絵画作品のドローイング、彩色を進める。 14：課題 B:絵画作品の完成に向け、仕上げとしての制作を進める。 15：課題 B:作品を完成させ、学外展を踏まえて講評会を行う。
実務経験のある教員	戸矢崎満雄は平面を含む多様な作品で、中山玲佳は絵画を中心とした作品で展覧会などへの発表の経験がある。
授業時間外学習	美術以外のジャンルに視野を広げることは、テーマ探求を促進する。各自のテーマに関わりがありそうな小説や映画、まんが、哲学などに触れ、知識や感性を磨くこと。表現技法や作品の完成度、展示方法など、実践的な表現技術は、さまざまな展覧会を見て、プロの技から学ぶこと。
評価方法	課題 A 作品 30%、課題 B 作品 50%、授業への取り組みを 20%で評価する。
指導方法	習作での講評会、本作では中間発表と講評会を行う。学外展示では合同の発表・講評会を行う。
使用テキスト	適宜プリントを配付する。
参考テキスト・URL	適時、個別に参考となるものを紹介する。
各自準備物	
実習費	作品制作に関する費用は、各自の負担となる。
その他	美術領域の３年生以上が対象。

科目名称	フィギュア・彫刻演習 C			授業コード	20070732
担当教員	三島　一能				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（美術領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	各自のこれまでの作品を振り返ることで、そこに読み取れる世界観を探る。 各自の世界観を意識した造形作品を構想し、よりふさわしい材料を選択しながら表現できる造形力を高めることが期待できる。
授業計画の概要	各人がこれまでに制作した作品を振り返り、全体を見渡すことでどのような世界が読み取れるかを探る。また、表現を支えている材料、構造、技術、配色などについてもその適性度を確認する。作品は個々の表現だけではなく、作品どうしが互いに関係しながら作りだす世界によっても支えられている。今後の制作では背後にあって作品を支える世界観を意識し、積極的によりふさわしい材料、構造、技術、配色を選択しながら制作を進める。この授業は卒業研究へ結びつけることを前提とした学習として位置づけている。
授業計画	１：課題説明／過去の作品を振り返りながら、意見交換する。 ２：過去の作品の分析から、これから取り組む作品の概要を設定する ３：作品の概要をもとにアイデアを考え、イメージをラフスケッチする ４：イメージを具体的なプランにしながら、展示方法も含めて検討する ５：油土を用いたマケット制作で全体的なイメージを把握する ６：油土を用いたマケット制作で細部のイメージを把握する ７：芯の大きさ、材質、形状を決定し、重心位置も確認して制作する ８：台座の形状を考え、作品の固定方法も決めて必要な材料を手配する ９：粘土を水で調整しながら、芯材に粘土を盛りつけて粗造りする 10：全体とのバランスに注意しながら各部分の造形を行う 11：必要に応じてスパチュラに加工を施すなどして細部の造形を進める 12：必要に応じてテクスチャーパッドを作り、テクスチャーを造形する 13：モデリングでできた凹凸や細かな傷などを修正し塗装の下地を作る 14：調色、光沢などに注意しながら着彩を施し作品を完成させる 15：作品を展示鑑賞し、個々の作品について教員から講評を受ける
実務経験のある教員	担当教員は独自の構想で造形物を制作し、数多くの公募展、個展、グループ展等で作品を発表している。その豊富な経験を生かして、作品の構想、材料の知識と扱い方、造形表現についての具体的な教育を行っている。
授業時間外学習	各自が構想する作品に参考となる作品資料を集める。
評価方法	提出作品を 80%、授業態度や課題に取り組む姿勢を 20%の割合で評価する。 3 分の 2 以上の出席を評価対象とする。
指導方法	作品の展示および講評
使用テキスト	
参考テキスト・URL	立体イラストレーションⅡ／グラフィックス編集部／グラフィックス社
各自準備物	フィギュア制作用具一式、着彩用具一式
実習費	
その他	

科目名称	美術教育演習Ｃ			授業コード	20070223
担当教員	さくまはな				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（美術領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	学校や社会において実践的なものづくりの学びの場を創出する能力を身につけるために、①現在社会で繰り広げられているアートプロジェクトやアートの取り組みの事例をリサーチする力を身につける　②造形のしくみ、技法、展示のしくみなど実践的なノウハウを身につけることで、社会とアートの繋がりを意識した多角的なものの見かたと造形力を獲得する。また授業で得た知識をベースに、ワークショップ・アートプロジェクトを自ら企画できる力を養う。 到達目標は、ワークショップ・アートプロジェクトなどを自分で提案できるようになる。そして、その企画内容に沿った造形物をつくることができるようになる、あるいは、それをどのようにすれば実現可能かを具体的かつ論理的に文章・口頭で説明できるようになる。自ら、テーマを探し、それに適した素材・技法・方法論をみつけ、作品としてまとめ上げる能力を身につける。
授業計画の概要	授業の前半では、テーマに沿って平面や立体の個人制作・共同制作に取り組む。アイデアを練る段階でワークショップ、アートプロジェクトなどの社会における造形活動のあり方、技法、素材、造形について事例調査を行い、社会とアートの繋がりについての理解を深めていく。授業を通じて、調査報告、さらにそれらの調査からみえてきたテーマやトピックについて履修者同士がディスカッションする時間を設け、互いの作品やプロジェクトについて意見交換やフィードバックを行い、相互理解を促進し、視野を広げることを推奨する。そうした取り組みから、最終的に各自がアートプロジェクト・アートワークショップあるいは作品案をまとめ、実施、展示を見据えた成果物の作成へと繋げていくこととする。
授業計画	１：イントロダクション　社会とアートの繋がりを考える、アートワークショップ・アートプロジェクトとは？ ２：アートワークショップ・アートプロジェクトの事例調査とグループディスカッション ３：課題１　テーマ：私と私を取り巻く世界「平面」アイデアスケッチ、企画案 ４：課題１「平面」テーマに沿ってディスカッション、素材研究、作品制作 ５：課題１「平面」テーマを掘り下げ、素材を選び作品制作を進める ６：課題１「平面」作品を完成させ、作品についてプレゼン・講評 ７：課題２「自由作品」各自テーマを設定し、アイデアスケッチ、企画案を練る ８：課題２「自由作品」テーマに沿って作品の内容や表現方法、制作プロセスを検討し、制作を進める ９：課題２「自由作品」作品制作、グループでお互いに中間発表を行う 10：課題２「自由作品」作品制作つづき 11：課題２「作品」作品を完成させ、作品についてプレゼン・講評 12：課題３「アートワークショップ・アートプロジェクトプランの提案」リサーチ 13：課題３「アートワークショップ・アートプロジェクトプランの提案」試作品づくり 14：課題３「アートワークショップ・アートプロジェクトプランの提案」試作品完成、展覧会、講評会 15：まとめ・講評
実務経験のある教員	本授業を担当するさくまは、イギリスおよび日本での美術家としての作家活動・アートプロジェクトやワークショップを含むアート活動の経験を有することから、本授業においても作品紹介やそうした経験で得た知見を活用することとする。
授業時間外学習	作品制作やワークショップ・アートプロジェクトの実践を意識しながら、国内外のアートシーンやものづくりを巡る交流の場を調査し、多様なものづくりへの興味を養うこと。
評価方法	実践活動 40%、提出物 40%、課題の取り組み 20%の割合で評価する。 課題に対する理解度、発想力（目的やテーマに沿ったアイデアを提案へと展開していく力）、作品の完成度、課題への取り組みの積極性、共同制作やグループセッションでのコミュニケーション力や口頭発表の際のプレゼンテーション能力を評価する。（評価基準）
指導方法	授業内にグループまたは個別指導および講評の時間を設けて順次フィードバックを行う。アクティブラーニングを積極的に取り入れ、必要に応じて、フィールドワークやアートプロジェクトなどの学外での活動を取り入れる場合もある。
使用テキスト	適宜資料等を配付する
参考テキスト・URL	
各自準備物	筆記用具、スケッチブック、必要に応じて、各自、絵具セット一式、立体造形に必要な道具を準備
実習費	各自の作品制作に関わる材料費、学外授業・見学がある場合の交通費は個人負担となる。
その他	「絵画演習Ｃ」、または、「フィギュア・彫刻演習Ｃ」を履修していても履修可能。

科目名称	ジュエリー・メタルワーク演習Ｃ			授業コード	20070443
担当教員	田口　史樹				
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	素材・表現方法も既成概念にとらわれず、自分なりの発想をもとに制作を行うことも可能とし、作家、デザイナーとしての表現力を身に付ける。
授業計画の概要	これまで習得した工芸技法や技術を生かし、与えられたテーマもしくは自分なりの研究テーマを掲げ作品制作を行い、素材・表現方法も既成概念にとらわれず、自分なりの発想をもとに制作を行うことも可能とし、作家、デザイナーとしての表現力を身に付ける。
授業計画	1：イントロダクション 研究テーマの選定・デザイン 2：制作／デザイン・素材研究 3：制作／デザイン・素材研究 4：研究制作／形成・構成 5：研究制作／形成・構成 6：制研究作／形成・構成 7：研究制作／中間チェック 8：研究制作／形成・構成 9：研究制作／形成・構成 10：研究制作／形成・展示構成、展示台制作 11：研究制作／形成・展示構成、展示台制作 12：研究制作／表面処理・色止め、展示台制作 13：研究制作／表面処理・色止め、展示台制作 14：研究制作／仕上げ 15：仕上げ・講評 ※適時中間チェックを行う。
実務経験のある教員	田口 作家として制作活動の経験を活かし、より実践的な技法・技術を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題制作に積極的に取り組み、より完成度の高い作品にすること。
評価方法	作品評価 80%、授業態度 20%の割合で評価。 課題未提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
指導方法	講評の授業の中で、それぞれの課題作品について教員が講評を行う。
使用テキスト	適宜指示
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	材料費は各学生の制作作品に応じて発生する。
その他	ジュエリー・メタルワーク分野を選択する学生は必ず履修すること。

科目名称	ガラス・陶磁器演習Ｃ			授業コード	20070383
担当教員	友定　聖雄	森岡　希世子			
単位数	6	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	各自が自分で設定したテーマに沿って、これまでに習得したガラスと陶磁器の専門的技術を展開し、独創性と完成度の高い作品を作るための深い知識を身につける事ができる。又、専門的機器類の工学的理解度を深め、これから取り組みたい研究課題をより高度で洗練されたものとするための能力を身につける事ができる。
授業計画の概要	これまでに習得したガラス・陶磁器の技法と素材に関する知識を生かした完成度の高い作品制作を目指し、実習によって得られたデータをもとに、窯などの適切な操作を導き出す。さらに、４年次の卒業研究を見据え自身の得意とする技法、表現の発見に繋がる様に実験的試みと更なるデータ収集を行う。より高度な専門的技法と表現力を高める事を目的とする。
授業計画	1：イントロダクション、ガラス技法、陶芸技法による課題の説明（友定、森岡） 2：イメージスケッチ、マケット作り（友定、森岡） 3：キルンワーク、コールドワーク技法の確定（友定） 器のイメージスケッチ（森岡） 4：デザイン考察、ラフスケッチ（友定）　　器の制作（森岡） 5：デザイン研究会（友定）装飾デザイン（森岡） 6：技法考察、素材選定（友定）装飾（森岡） 7：各自それぞれの技法で制作　　作品制作（友定）　　釉薬掛け（森岡） 8：作品制作、仕上げ行程（友定）焼成（森岡） 9：ガラス、陶磁器の習得技法による自由作品の制作１、デザイン考察（友定、森岡） 10：ガラス、陶磁器の習得技法による自由作品の制作２、技法の確定（友定、森岡） 11：ガラス、陶磁器の習得技法による自由作品の制作３、素材の確定（友定、森岡） 12：ガラス、陶磁器の習得技法による自由作品の制作４、技法の応用（友定、森岡） 13：焼成データの作り方、窯入れ作業（友定、森岡） 14：研磨、仕上げ作業（友定、森岡） 15：作品の全体講評（友定、森岡）
実務経験のある教員	友定、森岡 作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な創作活動を指導する。
授業時間外学習	博物館、美術館でのガラス、陶芸に関する名品をできるだけ見に行くよう努めること。
評価方法	作品を評価する。課題は提出しなければＥ評価とする。
指導方法	全体講評の授業において全員の課題作品を教員が講評する。
使用テキスト	便宜、ガラス、陶芸に関する印刷物を配布
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、筆記用具、スケッチブック、カメラ
実習費	制作に必要な材料は各自購入すること。
その他	

科目名称	美術特別演習			授業コード	10070272
担当教員	戸矢崎　満雄	さくまはな、中山　玲佳			
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	4	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	基本は対面で、一部を遠隔で行う。
使用するアプリ等	Teams を使用。
履修制限等	Ａ生（美術領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	各自のテーマを深めるためにポートフォリオを編集し、構想を広げるためのリサーチと各自の作品展示を行い、卒業研究を側面からサポートして、美術の世界で社会と関わるために必要な知識とスキルが身につく。
授業計画の概要	社会で認められるために、社会とつなぐことの具体的な方法として各自のポートフォリオをまとめ、卒業研究のためのリサーチも含め作品展示も行い、アートに関わる者として、社会参画とその技術について学ぶ。
授業計画	１：イントロダクション…課題や展示について・研究方法の説明（戸矢崎・さくま・中山） ２：ポートフォリオのつくり方　ポートフォリオの基本構成、しくみ、用途（さくま） ３：プロフィールをつくる　自己紹介文と活動歴の基本構造と記載方法について（さくま） ４：プロフィールにふさわしい表紙からページの構成をつくる（戸矢崎） ５：コンセプトを書く　自分の作品のテーマや取り組みを文章化する（さくま） ６：表紙やコンセプト・タイトルなどの文字（フォント）を統一する（戸矢崎） ７：作品写真のレイアウトや文字とのバランスを統一する（戸矢崎） ８：ポートフォリオを完成し、各自の発表後に講評会を行う（戸矢崎・さくま） ９：注目する作家や展覧会についての調査レポートに関するリサーチ（中山） １０：過去作品及び卒業研究作品の展示についてのディスカッション（中山） １１：作家や展覧会の調査レポート作成および口頭発表の準備　（中山） １２：作家や展覧会の調査レポート提出および口頭発表と講評（さくま・中山） １３：過去作品及び卒業研究作品の展示のための制作と準備（戸矢崎） １４：過去の代表的な作品と前期に卒業研究で取り組んでいる作品を展示（中山） １５：展示作品と卒業研究について発表し、教員から講評を受ける（戸矢崎・さくま・中山）
実務経験のある教員	担当する全教員が、美術作家として作品の制作や各種の展覧会などで発表する経験がある。
授業時間外学習	卒業研究や自身の将来像と関係することがらについて、継続的に疑問点を見出し、授業内で解決できないところも自身で調べるようにする。
評価方法	課題制作 50%、作品展示および発表なとの授業への取り組み 50%で評価する。
指導方法	ポートフォリオ制作では個別指導やプレゼンテーションと講評会を行う。作品展示では発表・講評会を行う。
使用テキスト	必要な場面で、プリントを配布する。
参考テキスト・URL	適時、個別に参考になるものを紹介する。
各自準備物	
実習費	学外での見学に必要な交通費や鑑賞の費用。
その他	

科目名称	クラフト特別演習 ①			授業コード	10170741
担当教員	友定　聖雄	森岡　希世子			
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	4	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	各自の研究テーマに沿って、自由な発想で、独創的な作品を制作するための高度なクラフトの専門的な技術を身につける。また、公募展、個展、グループ展等で作品を発表し、社会に貢献できる能力を身につける。
授業計画の概要	クラフト領域各コースのゼミ教員の指導方針に従い、作品制作または研究活動に入る。及び公募展や個展、グループ展に応募、出展し社会活動として各自の創作を発信する。
授業計画	１：オリエンテーション（友定、森岡、田口、三島） ２：研究テーマの設定 ３：素材の選択 ４：素材の特徴を詮索 ５：形の考察 ６：研究テーマに沿った自由課題の制作 ７：研究テーマに沿った自由課題の制作 ８：中間講評 ９：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １０：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １１：各コースによる作品チェック １２：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １３：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １４：各コース作品最終チェック １５：全体講評
実務経験のある教員	友定、森岡 作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な創作活動を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題の作品制作に取り組み、より完成度の高い作品に仕上げるよう努める事。
評価方法	作品による評価（８０％）と展覧会などの活動実績（２０％）の合計点で評価する。課題はすべて提出しなければ E 評価となる。
指導方法	全体講評の授業で全員の作品をそれぞれ教員が講評する。
使用テキスト	便宜、必要に応じて各コースの専門的なテキストを配布する。
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、筆記用具
実習費	制作に必要な材料は各自購入すること。
その他	

科目名称	クラフト特別演習 ②			授業コード	10270741
担当教員	田口　史樹	三島　一能			
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	選択必修
年次	4	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	Ａ生（クラフト領域）限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	各自の研究テーマに沿って、自由な発想で、独創的な作品を制作するための高度なクラフト分野における専門的な技術を身につける。また、公募展、個展、グループ展等で作品を発表し、社会に貢献できる能力を身につける。
授業計画の概要	クラフト領域各コースのゼミ教員の指導方針に従い、作品制作または研究活動に入る。及び公募展や個展、グループ展に応募、出展し社会活動として各自の創作を発信する。
授業計画	１：オリエンテーション（友定、森岡、田口、三島） ２：研究テーマの設定 ３：素材の選択 ４：素材の特徴を詮索 ５：形の考察 ６：研究テーマに沿った自由課題の制作 ７：研究テーマに沿った自由課題の制作 ８：中間講評 ９：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １０：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １１：各コースによる作品チェック １２：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １３：卒業制作を踏まえての自由課題の制作 １４：各コース作品最終チェック １５：全体講評
実務経験のある教員	田口、三島 作家として制作活動の経験を活かし、より実践的な技法・技術を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題の作品制作に取り組み、より完成度の高い作品に仕上げるよう努める事。
評価方法	作品評価 80%、授業態度 20%の割合で評価。 課題未提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
指導方法	全体講評の授業で全員の作品をそれぞれ教員が講評する。
使用テキスト	便宜、必要に応じて各コースの専門的なテキストを配布する。
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	作業着、筆記用具
実習費	制作に必要な材料は各自購入すること。
その他	